



「西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト」の上映ラインナップに、映画監督・小田香による映像作品『Underground』が加わりました！地下空間に焦点をあて、札幌市内各地での撮影を経て完成した本作を、4月1日より上映します



西2丁目地下歩道映像制作プロジェクトは、さっぽろ地下街オーロラタウンと札幌市民交流プラザをつなぐ「西2丁目地下歩道」を舞台にした映像制作のプロジェクトです。4面プロジェクションからなる横長の特殊スクリーンと、歩行空間という特徴を元に、多様で実験的な映像表現を探求しています。

本プロジェクトでは、これまでに、札幌を拠点に活動する映像チーム STUDIO ROCCA、映画・美術の分野で活躍する大木裕之、写真家の野口里佳、世界的に活躍するタイの映画監督アピチャップン・ウィーラセタクンによる4つの映像作品を制作しました。

5作目となる今回は、2019年制作の映画『セノータ』で各方面より絶賛を受け、令和2年度(第71回)芸術選奨映画部門新人賞(主催：文化庁)を受賞した気鋭の映画監督・小田香に制作を委嘱し、地下空間に焦点をあてた作品『Underground』が完成しました。

4月1日より、小田香による新作を含めた5作品のラインナップで上映を行います。

『Underground』(9分37秒) 上映予定時間

9:00 / 10:25 / 11:00 / 12:25 / 13:00 / 14:25 / 15:00 / 16:25 / 17:00 / 18:25 / 19:00 / 20:25 (1日12回)

※他4作品を含む全体スケジュールは4月1日以降ウェブサイトにてご確認ください。

<西2丁目地下歩道映像制作プロジェクト> https://sapporo-community-plaza.jp/archive_nishi2chome.html

◎小田香作品特集上映決定！6月10日(金) ※18時以降を予定

シアターキノにて小田香作品の特集上映を行います。上映作品等詳細は決まり次第シアターキノホームページにて発表します。(主催：シアターキノ)

<https://www.theaterkino.net/>

◎トークイベント開催決定！6月11日(土)

本作の完成を記念して、新作『Underground』のスクリーン上映とトークを行います。本作に到る経緯や撮影の様子など、小田香の作品制作を掘り下げます。

詳細は後日 SCARTS ホームページにてお知らせします。

「Underground」

地上からは見えない地下の暗闇を光で照らすとき、そこに浮かびあがるものは何か。映像の中で重なる記憶や声、影と光、原始から宇宙までのイメージは、私たちをどこへ連れていくのか。

圧倒的な映像と音によって、イメージの奔流とでもいうべき作品の中に観る者を引き込んでしまう映画監督・小田香が捉えた、札幌の地下空間。いくつもの空間と時間が重なり、原初の記憶のようにも、未来の光のようにも感じられるその映像が、地下通路の空間をもゆさぶっていく。

地下にある人の営みと、場所に積層する時間



映像制作を通して、人間の記憶 — 私たちはどこから来て、どこに向かっているのか — を、一貫して探究している小田香。彼女はこれまでもサラエボの炭鉱（石炭）、メキシコの地下水洞（水源）など、異国の不可視空間を撮ってきました。地下にあるそれぞれ特徴的なロケーションは、かつての生活インフラを支える役割を担っていた場所でもあります。小田は、長期にわたるリサーチによって、土地とその歴史や、そこに住まう人々との関係を独自の美学によって捉え、圧倒的な映像と音響に昇華しています。存在そのものの初源に立ち会うような体験を生む作品の強度は、国内外ともに高い評価を得ています。

本作『Underground』は、札幌の地下空間を捉えた映像作品です。地上からは見えない地下空間には巨大なインフラがあり、この都市と人々の暮らしを支えています。また都市の発達とともに拡張し、整備され、日々遅滞なく機能するそれらの空間には、この土地を支えてきた人々の営みや時間が積層しています。

今回、小田はこの地下空間に複数のイメージや光を投影した上で、フィルムでの撮影を行いました。映像の中で重なる過去の情景や家族の声、幾度も現れる洞窟と穴、原始と宇宙のイメージは、作品が上映される地下歩道空間を別の時空へと接続し、現在の時間をゆさぶるような感覚をひきおこすでしょう。地下通路という特徴のある空間で発生する新たな映像表現にご期待ください。

撮影場所

厚別川雨水ポンプ場雨水管／札幌市営地下鉄東豊線栄町駅留置線、東西線ひばりが丘駅－東車両基地連絡通路／札幌都心北融雪槽／豊平川水道水源水質保全バイパス内バイパス水路（定山溪地区）／モエレ沼公園 海の噴水地下貯水槽

札幌市内での撮影の様子



<監督の言葉>

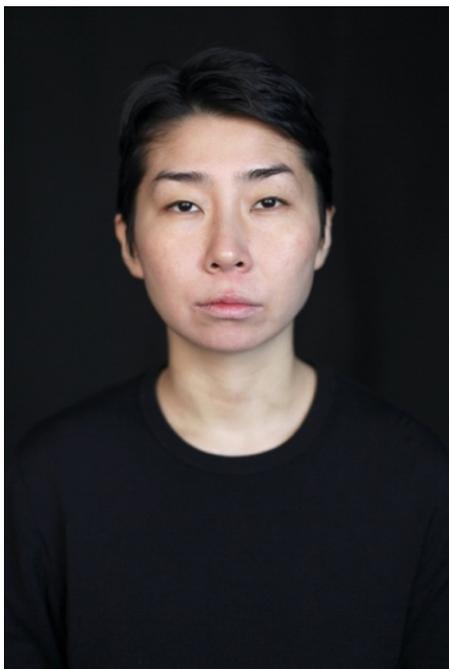
地下の世界は真っ暗で、光で照らさないと何も見えない。うつらない。暗闇を光で照らす作業は、その空間を光で彫刻する行為のような気がした。照らし方によって、見える面が、その見え方が変化する。今回札幌で撮影した空間は、雨水を運ぶ管だったり、雪を溶かすための槽だったり、公園の噴水下、地下鉄のちょっと奥など、私たちの日常の隣にありえる場所だ。我々はそれらの空間を通して、宇宙に出た。138億年といわれる時空に接触を試みた。

何に耳を澄ませていたのだろう。石や星、家族の思い出、それらを繋ぐ穴たちを空間に投影することで、私たちはそこにある痕跡を見出そうとするよりは、私たちの痕跡を残そうとしてるのかもしれない。あるいは、古い跡に新しい跡を重ね、私たちもここに来たぞ見たぞ居たぞと、いくつも重なる層のひとつとして発信し、発見されたいのかもしれない。地下の痕跡はいずれ地上に顔を出すだろう。人間たちがいたことを表す層は綿々と積み重なっていく。

小田香

○プロフィール

小田香（おだかおり） <https://www.fieldrain.net>



大阪生まれ、在住。米ホリonz大学教養学部映画コース修了。卒業制作である中編『ノイズが言うには』（2010年）が、なら国際映画祭 NARA-wave 部門で観客賞受賞。東京国際 LGBT 映画祭など国内外の映画祭で上映される。巨匠タル・ペーラが陣頭指揮する film.factory に第1期生として招聘され 2016年に同プログラムを修了。2014年度ポーラ美術振興財団在外研究員。第一回長編作品『鉦 ARAGANE』（2015年）が山形国際ドキュメンタリー映画祭・アジア千波万波部門にて特別賞を受賞、各地の国際映画祭等で上映。2020年、新設された大島渚賞（審査員長：坂本龍一、審査員：黒沢清/荒木啓子）では第1回の受賞者となった。最新作『セノーテ』（2019年）はロッテルダム国際映画祭でプレミア上映され、「まぎれもない傑作」（蓮實重彦氏）など、各方面より絶賛。『セノーテ』の成果により、令和2年度(第71回)芸術選奨映画部門新人賞（主催：文化庁）を受賞した。

小田香 「Underground」 9分37秒／2022年制作

<スタッフ>

監督／撮影／編集／サウンドデザイン：小田香
テクニカル・ディレクション／音響／グレーディング：長崎隼人
撮影・制作アシスト：三浦博之
プロデューサー：杉原永純
エグゼクティブ・プロデューサー：筒井龍平（トリクスタ）
撮影技術：岩田拓朗（SCARTS）
撮影技術補助：平戸理子（SCARTS）
制作補助：山田大揮（SCARTS）
ロケーション／制作コーディネート：小山冴子（SCARTS）

<撮影協力>

札幌市交通局
札幌市下水道河川局
札幌市水道局
札幌市雪対策室
モエレ沼公園
シアターキノ

<8mm フィルム投影映像提供>

中島洋（「窓から海の揺れがみえた」）
中島ひろみ（「えにっき5 『水の日』 1991」）
佐藤朋子
小林昌三

<協力>

さっぽろ天神山アートスタジオ

製作：札幌文化芸術交流センター SCARTS（札幌市芸術文化財団）

○西2丁目地下歩道へのアクセス

さっぽろ地下街オーロラタウンと札幌市民交流プラザをつなぐ地下歩道です。

札幌市営地下鉄「大通駅」30番出口より直結



○お問い合わせ

札幌文化芸術交流センター SCARTS

〒060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目 札幌市民交流プラザ 2F

TEL: 011-271-1955 / FAX: 011-271-1956 / Mail: scarts@sapporo-caf.org

担当：小山、野口、樋泉

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。